

# KTK ひゅうまん 京都

No 530 2021年1月号

編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P1 左大文字 つどめ
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 「ふつうのくらし」を求めて 大西里江
- P4 血の染みついたバトン 中村 暁
- P5 障害者と共に歩んだ京陣連の50年 松本美津男
- P6 7 子どもと親のSOSをキャッチする  
仕組みを考えるシンポジウム
- P8 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P9 2+2=詩 赤富士文兼
- P10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P11 新年のあいさつ 池添 素
- P12 ありがとうございます

## 左大文字

「問い」をつくる

謹賀新年▲新年早々気が滅入ることばかりが続いている▲新型コロナウイルスの感染拡大は毎日のようにこれまでを更新し一日1万人を目前にしている。医療関係者からは崩壊寸前と悲鳴のような声が上がっている。それでも、壊れた蓄音機のようにマスク・手洗い・三密回避しか言わないリーダー▲海の向こうでは、クーデターまがいの騒乱を現職大統領が扇動した。正義の名の下で他国の主権を侵害し、今なおblack is Matter 運動が起る自由と民主主義の国。だから、驚くにはあたらぬかもしれないが、驚いた▲でも、決して悲観はするまい。そう思わせてくれたのは年末に再放送された「7人の小さき探求者」(NHK)。宮城県の気仙沼市の小泉小学校の6年生を取り上げた。7人の小さなクラスだ。同校で、東日本大震災をきっかけに始まった対話を通じて子どもが主体的に考える力を育て授業「philosophy for children(略称P4C)のドキュメントだった▲撮影最中に起こった突然の全国一斉の休校宣言。卒業式の準備の最中に休校は伝えられた。なぜ?どうして?P4C学んだ子どもたちはこの唐突な政治的宣言をどのように捉え言葉にしたのだろうか。ある女の子は言う。「なぜ子どもの意見を聞かないのですか、という問いがうかびます。子どもも意見を言いたいです」。小さな「市民」だ▲なぜ?どうして?と「問い」を構築する力。子どもだけでなくすべての世代の課題だ。

つどめ



「丑」  
渡辺あひる

# 常任委員会から

〈つながりました〉

1月6日、埼玉と大阪、そして京都も山科区、中京区、北区から総勢5名がオンラインのZOOMでつながりました。メンバーは、埼玉からは障全協会長の

ムで暮らしている播本さんと沖田さん。さつさとグループホームに帰る播本さんの息子さん、我が家はそっちのようです。なにかと家族の出番が多いグループホームの在り方に問題意識をもっている沖田さんとの情報交換は貴重でした。特に、訪問歯科

ともに全国障害児者の暮らしの場を考える会の代表と事務局長。京都からは、京障連の代表委員となられた沖田友子さんと大西里江さん、そして事務局の池添でした。

の利用については、取り組み方が様々で、週1回口腔ケアが実施されているグループホームの存在に、みんなびっくりしました。その後は、障全協や暮らしの場を考える会の活動などの報告、京都からは、7月に起こった、事件（詳細は以下）についての取り組みを交流しました。播本さんからは、親が子どもの命を奪う事件は大阪でも身近なところでこれまでいくつか起こ

自己紹介に始まり、お正月の過ごし方から話は始まりました。娘さんが入所中の新井さんと大西さん、家に連れて帰れた新井さん、面会すらできなかつた大西さん。対応の違いにびっくり。息子さんがグループホー

っていて、人ごとではないこと。強度行動障害についても、家族の悩みが深く、専門的な支援を届けることの大切さも話されました。でも、困難はいつもそばにあり、しお時を共有すること

で乗り越えていけるは共通した思いです。「ひとりぼっちじゃない」を合言葉に、新しいつながりで、楽しく運動を進めていきたいと思ったひと時でした。

で、障害児を育てる家庭の困難や、支える仕組みについて、社会も保護者自身も、知らないことが多すぎるのではないかとということが見えてきました。特に強度行動障害については、実際参加している保護者のところでも、息子さんのへの対応でとても苦労されていることなど、動画の様子は想像以上でした。

〈SOSをキャッチしよう〉  
昨年の7月16日、京都市内で総合支援学校高等部2年生の少年が母親の手により命を奪われたという事件が起きました。新聞やネットの情報でこの事件を知った保護者や支援者は大きなショックを受けました。日がたつにつれ、事件の記憶が薄れていくことに危惧を感じて、京

私たちが5回にわたって話し合ってきたこと、そこには多くの方

障連の呼びかけで、8月から保護者や関係者で話し合いを重ねてきました。なぜこの事件が起こってしまったのかを考える中

に知ってほしいことがいっぱいです。コロナ禍ですが、オンラインでシンポジウムを企画しました。保護者の方が参加しやすいように午前中に開催します。2月17日の10時から12時まで（詳細6く7P参照）です。

池添素（京障連事務局長）



## 「ふつうの暮らし」を求めて ⑬

大西 里江

### 〈一人ひとりに合った支援を〉

平成22年は、娘はとても入院が多く、状態も重いことが多くて、一回入院すると一か月以上入院していました。

平成23年正月、この年度5回目の入院は、急変して救急車で入院しました。今回は今までが一番重症なので、かなり長い入院になると覚悟し、支援サービスの時間が超えてしまうと思って、京都市役所本庁の障害福祉課に連絡しました。

「見守りの支援サービスの時間が足りないのですが、上限を超えたらサービスは受けられないのでしょうか？」と聞くと、「今回は長期入院になりそうなんですわ、わかりました。何とかしましょう、上限のことを気にせず、今まで通りサービスを利用してください」と回答してくださり、ホッとしました。

数日後、再び障害福祉課に連絡してみると、「病院と区役所に確認して、病状が重いこと、非課税であること、そのうえでお母さん以外の付き添いの方がおられないという条件、すべてに当てはまりますので、時間の上限はないということで大丈夫ですので、時間を気にせず利用してください。どうかご無理されないように」と。私の身体まで案じてくださり、「助かります、ありがとうございます」

娘が3月の初めに退院するまで、週2回、1回4時間のサービスを利用してしてもらいました。そ



の後、2年経った頃、この支援サービスの上限時間が超えると、自費になったことを知りました。当時お世話になった課長さんは異動されていて、詳細はわかりませんが、重症な方ほどよく入院します。そして、その家族が一番大変な思いをされています。家族の支援が途中で打ち切られる制度になったことはとても悲しいことです。一人ひとりに合った時間数で支援してもらえるようになったらと思っています。

### 〈声をあげる〉

制度はその時に感じて変えていけばよいものです。昭和30年から40年代頃、年金も手当もなく、すべて家族で見て支えていくしかなかった時代から、健康保険も整い、医療も安心して受けられるようになりました。

何もなかった時代の親御さんのご苦労、努力によって今の制度ができたことに心から感謝しています。声をあげないと分かってもらえないことは今も同じで、変わっていません。どんな支援が必要で、どうしてほしいのかをはっきり伝えていくことが大切です。

声なき叫びがないように、ちゃんと届くように、私はいつも伝道師でいようと思っています。寝たきりで身体が不自由な家族が、心も身体も少しでも苦痛がなく、穏やかに過ごせるように。うつうつ・・・不痛のへらしびがびきるように。

# 血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

## ① コロナ禍の世界

「世界史の住人たちは一度として、危機の反省から、危機を繰り返さないための未来への指針を生み出したことがない。世界史で流された血の染み付いたバトンを握る私たちは、今回こそは、今後使いものになる指針めいたことを探ることはできないだろうか」。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受け止め、京都大学の藤原辰史氏は早い段階で岩波書店のウェブサイトにこう記している。

コロナ禍もたらす危機は多様である。コロナ禍で仕事を失った人は報道されるだけでも8万人。テレビでよく見かけるのは閉店に追い込まれる店主の苦悩である。だが一方、いとも簡単に解雇され、職を失った人た

ちも多数いる。昨年11月16日、

東京・渋谷のバス停で60代のホームレス女性が撲殺されるといふ事件があった。殺された女性もコロナ禍において職を失った人の一人だった。非正規雇用が4割を占める日本、生活保護の捕捉率も2割に満たない日本ならではの事件である。だがこうした事実に対し、雇用政策の誤りを指摘し、根本的な見直しを求める発言は政権やメディアからは皆無。藤原氏の指摘に沿えば「危機を繰り返さないための

未来への指針」は、今のところ生み出される気配がない。医療の世界でも同じことがいえる。今、医療崩壊が起こっている。感染者急増で入院の受け入れが困難になり、通常の医療も提

入院が難しくなる理由は大きく2つある。1つは、ベッド（病床という）が足りないこと。もう1つは医師や看護師といった医療スタッフが足りないことである。何れも、これまで国が躍起になってきた病床数・医療従事者数の抑制政策が要因になっている。さらに病床については指摘すべき別の問題もある。本来、感染症患者の入院する病床は一般病床とは違う面積・設備基準で準備され、それらは「感染症病床」と呼ばれている。感染症病床数は都道府県別に配置基準が定められており、それに基づく京都府の病床数は計38床に過ぎない。現在、府が新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる病床数と公言しているのは680床。したがって本来感染症患者用ではない病床への入院が完全にスタンダードになっている。この事実は、国がいかに新興感染症を甘く見て、軽視



してきたかを表している。

そして何より恐ろしいのは、この期に及んでもなお、国は従来の病床数・医師数抑制政策を止めるつもりがないことである。やはり医療分野においても、国に「未来への指針」など期待出来ない。「血の染み付いたバトン」を手にしているのは権力側ではなく、私たちである。

（参考）「藤原辰史…パンデミックを生きる指針―歴史研究のアプローチ」岩波新書編集部  
<https://www.iwanamishinsho80.com/post/pandemic>

# 障害者と共に歩んだ京障連の50年(1)

京障連代表委員 松本 美津男

1970年11月15日、革新運動と全国の障害者、市民運動の高まりの中で京都障害児・者の生活と権利を守る連絡会(京障連)は結成されました。

結成50年の節目にあたり、現在の生活と権利を守る府市民集

## ○結成の前後

京障連結成の4年前、東京で革新都政の実現と障害者要求の実現目指して催された「障害者の教育と福祉と医療を守る第1回都民集会」の成功を受けて全国組織の結成の気運が高まり、翌1967年障害者の全国組織として「障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会」(障全協)の結成に至りました。

1969年11月の障全協全

害児者の課題は、同時に民主的

諸権利の回復と、生活の向上を願う国民多数にとつての課題」との認識の下に「労働組合、民主回体等とも、手をつなぎあい、巾広い京都府市民との連帯の中でその目的実現のために闘います」と述べています。

初代会長には障害を持つ夏目文夫弁護士が就任し、結成時の組織構成は障害者団体5、障害児を持つ親の団体4、地域組織1、労働組合9、民主団体3の合計22

団体でした。

結成後翌年2月には勤労会館大ホールに800名が参加して「第2回障害児者の生活と権利を守る京都府市民集会」を開催し、障害児者の要求を明らかにすると共に民主市政を守り抜くことを確認しています。そしてその4月の第1回総会時には加盟団体が5団体増え27団体となりま

した。(続く)

京都障害児・者の生活と権利を守る連絡会

## 結成大会

\*と き 1970年11月15日(日) PM 2:00~5:00

\*と ころ ライトハウス (京都市北区千本北大路)

### <大会日程>

- 第 一 部 京障連結成大会 午後2時~3時
- 結成までの経過報告 (府立盲学校分会)
  - 京障連策約案の提案 (自由法曹団、青年法律家協会)
  - 活動方針、予算案の提案 (盲聴障害対策協議会)
  - 役員選出
  - 結成宣言 (京都府ろうあ協会)
- 第 二 部 結成記念集会 午後3時~5時
- お祝いのことば [京都府・京都府・諸政党・府市民団体協議会・京都府社会福祉協議会・京都子供を守る連絡会・総評]
  - 祝電披露
  - 参加団体の決意表明  
盲人協会・乙訓障害児父母の会・京都府北高障害者問題連絡会・民医連・向日ヶ丘養護学校・京敬組・施設職員代表
  - 京障連会長の決意表明
  - 第4回障全協全国集会成功のための訴え
  - 集会宣言
  - 全員合唱 しあわせの歌帖 (京都ひまわり合唱団)

# 第1回

## 「子どもと親のSOSをキャッチする仕組みを考える」

### シンポジウム

2020年7月16日、京都市内で、総合支援学校高等部2年生の少年が母親の手により命を奪われるという事件が起こりました。新聞やネットの情報でこの事件を知った、障害児を育てる保護者の間にも、障害児支援にかかわる仕事をしている人々にも、大きな衝撃を与えました。事件から日がたつにつれ、人々の脳裏から事件の記憶が薄れていくことに危惧を感じています。この事件を他人事ではなく、我がこととして重く受け止めた人たちが集まり、このシンポジウムを企画しました。

企画の趣旨は、①障害児を育てる家庭の困難さをもっとたくさんの方に知ってもらいたい。②長い年月をかけて、保護者が困難を切り開いてきた歴史も共有したい③障害児や家族を支援する仕組みも紹介したい。そして、一人で悩んでいたり、困難に心折れそうになっている保護者の皆さんと一緒に、どうすればよいかを考え合いたいと思っています。保護者の皆さんだけでなく、障害児者支援にかかわる皆さんのご参加もお待ちしています。

**2021年2月17日(水)10時から12時までオンラインで開催**

【10:00~10:10】

企画趣旨とシンポジストの紹介(田中智子さん 佛教大学)

【10:10~10:20】

障害児を育てるということは

竹口家の場合(映像または写真 伝えたいこと 竹口さん)

【10:20~10:30】

佐々木家の場合(映像または写真 伝えたいこと 佐々木さん)

【10:30~10:45】

行政に風穴を開けてきたこと(大西さん)

【10:45~11:00】

障害児と家庭を支える仕組みは?(沖田さん)

【11:00~11:15】

障害児の子育てに役立つワンポイントアドバイス(板野さん)

【11:15~11:45】

参加者と意見交換、質疑応答

【11:45~12:00】

まとめ・再び事件が起こらないために考えたいこと(田中智子さん)

# 第1回

## 「子どもと親の SOS をキャッチする仕組みを考える」

シンポジウム

- 参加費は無料です。
- 申込期限は 2月8日(月) です。2月10日頃に招待メールを送ります。  
届かない場合は、松岡 080-3796-3121 にご連絡ください。

### お申込み

- お申込みアドレス [sos.catch@gmail.com](mailto:sos.catch@gmail.com)
- FAX 申込み先: 075-465-4151 (福祉広場)

お名前(ペンネーム可)  
当日参加の E-mail:  
聞いてみたいこと:

所属

- 下記の QR コードをご利用いただくと、自動的にお申込みができます。



- ZOOM 接続について:  
当日は9時45分から接続可能です。  
10時から開始しますので、少し余裕をもってご参加いただけますと幸いです。
- ご参加の皆さまは、主催者よりミュートとさせていただきます。
- 発言や映像を録音、録画したりスクリーンショットを保存したりしないでください。
- ご参加の皆さまの画面共有は任意といたします。
- ご質問は当日もチャットでお受けいたします。  
時間の許す範囲で頂戴しました質問にお応えできるよう努めます。

# つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

## 場面⑬ 夢の中で、警察官になる

毎年この時期になると、「新年、あげまして、おめでとうございます!!」と口上のように声を張り上げる彼。今年は新型コロナウイルスでいつもと違う雰囲気の子供、目が合うと「おめでとう」と控えめな挨拶でした。

仮面ライダーやアニメが好きなのは、休日にはヘルパーと一緒に映画を観に行ったり、フィギュアを買いに行ったりしていました。でも今は、新型コロナウイルスの感染予防を考えて外出していません。ご家族からの説明を受けて、「コロナやから映画ない」「コロナでトイザラスやっへん」と会うたびに話しています。「バカ殿（志村けん）なくなった」とも口にして、彼なりに現実を受け止めているようです。

支援学校卒業時は、「場面の变化に弱く、一人で隣のクラスに行くのも難しい」との引き継ぎがありました。実際、作業所時代に普段活動している1階から、行事で集まる2階に上がれなかった思い出もあります。法人化に伴っての引っ越しもありましたが、あらぐさに通所して16年が経った今は、ご本人が行きたい場所へ自ら足を運んでいます。お気に入り

の職員の後に付いて新館まで行ったリ、テラスに出て窓ガラスに自分の姿を映しながら仮面ライダーのポーズを練習していたりしてします。気がつくとも部屋にやってくることもあり、「顔が素敵」「眼鏡似合う」「かわいいなあ」と声がかかります。一生分の褒め言葉をもらっている気分ですが、映画のパンフレットに載っている女優さんを指差しながら「似てる」と言う時は、「ファンの人に怒られるからやめて」とお願いしています。最近では、「夢に出てきた」と話しに来ました。「うち、何してました？」と尋ねると、「こう」と敬礼の

ポーズ。夢の中の中山は、警察官だったようです。

最近ご家族から、彼の絵が変わってきたと聞きました。お風呂の鏡に、UFOやカップの絵を描くそうです。せつやかなのでリクエストしてみたいところ、「カップ、カップ」と口ずさみながら、ブタのような鼻が特徴的なカップが完成しました。しっかりペンを握って自分のイメージを描き上げる姿に、彼の豊かな世界を垣間見ました。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）





# 2+2=詩

「音」

寂しく静かな一人の時間

耳を澄ませると聞こえてくる音

ぶうんぶうんと冷蔵庫が唸っている

そんなにお腹が痛いのかしら

冷たいものを食べ過ぎたのかしら

そつと小声で尋ねてみても

聞こえない振りして唸っているだけ

寂しく静かな一人の時間

耳を澄ませると聞こえてくる音

びゅうびゅうと風が叫んでいる

一体何がそんなに嬉しいのかしら

それともなにかに怒っているのかしら

大きな声で尋ねてみても

聞こえない様子で叫び続けている

寂しく静かな一人の時間

耳を澄ませると聞こえてくる音

どくどくと心臓が鼓動している

はあはあと空気が慌ただしく出入りしている

奏でているのは僕の体



生きているという確かな主張

頼んでいないのになんでそんなに懸命なのかしら

心の中で尋ねてみても

答えが返ってことはなく

考えてみてもわからない

寂しく静かな一人の時間 ドアが開いて吹き消えた

「冬の朝」

雪の積もった冬の朝

遠くの山を見てみると

そこにも雪が積もってた

たくさんの白の中に

ちらちら見えるわずかな緑

まるで粉砂糖を大量に振りかけたように

山は白く染まっていた

さんと冷たい冬の空気

家の中においても隙間から入り込んで

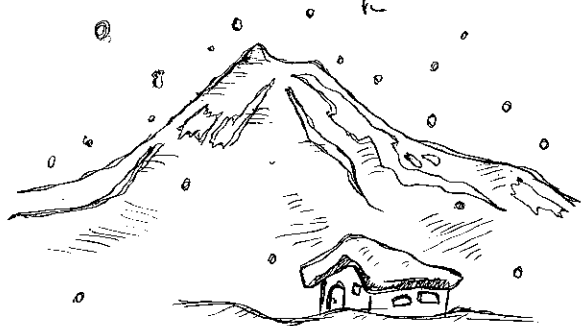
ぶるぶると体が震えてくる

山も顔すら隠れるほどの

白息をこぼして

寒い寒いと誰かがこぼした声が

白い息とともに空に登っていった



# 365歩のマーチ



い姿の内側で、いろんな感情がゆたかになってきていることを感じます。

※



## 10 みかん

「い、だー」「よいい、どん」のつもり?」と笑顔で叫びながら家のなかをとこ狭しと走り回るゆいちくん。左手は動かさずに右手はせわしなく前後に動き、ぴよんぴよんと跳ねるように…。(ぎこちない)…と思っていたら、すてん!と転んで「えーん」と泣き、「どこが痛かったん?」と聞くと「こ、こー」とうらめしそうに畳を指さします。こちらが聞いたことを教えてくれるようになってきました。

あんばんまんとばいきんまんが大好きで、あんばんまんの足けり車で家のなかを縦横無尽に動き回ります。コンビニであんばんまんのおかしを見つけると指をさして「ばん!ばん!」とおおはしゃぎ(父は気づかないふりをすることもありますが)。「おでかけするよー」と言うと「ば!ば!」と言ってばいきんまんのペットボトル入れを首からかけるように要求してきます。こんなにあんばんまんが大好きなのに、実は一度もアニメのあんばんまんを見たことがありません。「ばん!」「ば!」とはしゃいでいるけど、君はあんばんまんのおもしろさの半分もまだ知らないのだよ。人形は他にもたくさんあるのに、なぜこんなに好きになるんだろう。おそるべきあんばんまん、おそるべきやなせたかし先生。平和を慈しむ心もあんばんまんと通して知っていつてほしいものです。1歳6か月。一瞬一瞬で変わっていく喜怒哀楽。一見騒がし

年末にあった保育園の懇談で、「みんな、ねむたいよ」「おかわりー」「食べさせてよ」と騒がしいなか、一人で黙々と食べています」と言われるぐらい食べることが好きなゆいちくんです。そんな彼が大好きな食べ物のみかん。1歳頃、みかんを手にとると皮ごとかじって食べていました(農薬などやや心配でしたが)。最近では自分で皮をむいて食べるようになっていきます。何もない時はとりあえずみかん:便利な食べ物です。昨年暮れに母がデパートで店員のおすすめのみかんを買ってきました。「みかんなら絶対これですよ!」と店員一押しのみかんだけあってとっても甘く、おいしいみかんでした。ゆいちくんもそれが大のお気に入りになり、みかんを置いてある場所を指さしてはみか

んを食べていました。年が明けデパートにいつも行けるわけではないので、いつものお店でいつものみかんを買いました。いつものように指をさして、お皿いっぱいのみかんを用意してもらい、口にぽいっ。はむはむと噛んだ後、おもむろに「べー」と口からみかんが出てきました。(???)みかんを一つ食べてみると、前回のみかんと比べるとややすっぱい。母がおいしそうにみかんを食べることで、ゆいちくんもそのみかんをまた食べ始め事なきを得ました。食のゆいちくん、口もこえているのですね。息子よ、わが家では毎度毎度そんなにいいものは買えませんよ。

安藤 史郎(あかつきびばり園)

## 新年のあいさつ

新しい一年が始まりました。京障連も半世紀の歴史を経て、51年目のスタートです。このコロナ禍、以前から自粛生活を余儀なくされてきた障害当事者や自己責任を背負わされてきた家族のこれまでの困難を、すべての人たちが感じる日々です。不要不急以外の外出はなるべく避け、自粛した生活を強いられてきた障害当事者にとっては、いっそう行動の制限や生活の困難を伴っています。また、エッセンシャルワーカーとカタカナで呼ばれるようになった支援の仕事も、感染予防対策をしながらの、いつもに増してのハードな仕事になっています。

そんな中で迎えた新年に考えたことは、いつか収束するであろうコロナ禍の世界のことです。もちろんそこまで生き延びていたらの話ですが、でもそれは個人のことでなく、この社会に生きているすべての人の暮らしや人生にかかわります。

私はコロナ禍前に戻してはいけないと強く感じています。人々が競争と自己責任社会の中で命をすり減らして生きる社会に未来はありません。障害があってもなくても、子どもも年寄りも、性差に関係なく、社会から大切にされる仕組みこそが、コロナ禍をこえた私たちが学んだことではないでしょうか。

コロナと向き合って一年がたっても、何も学ばない、手遅れすらも繰り返す無能な政権中枢の動き。経済界の要請がどんなものか知る由もないが、感染拡大が経済を破壊していくことぐらいわからなかったのだろうか。そうならないための対策は、公的な保障以外に何があるのだろうか。会社を休んでも、飲食店を閉めても、経営が困難になった時に頼りになる受け皿があってこそ、感染拡大対策に結びつくというもの。もっと「おかしい」の声をあげていかねば。

京障連は、今年の総会で新しい組織体制を作り、これまでの運動の上に、さらに新しい課題に向き合います。キーワードは『くらし』です。障害当事者や家族の暮らし、そして支援にかかわっている人たちの暮らしにも目を向けていきたいと思っています。本年もご協力のほど、どうかよろしく申し上げます。

(事務局長 池添 素)

### あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に  
京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

### 命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)

ありがとうございます

年会費 岡部三雄 寄付 井上吉郎

(敬称略・2021/1/10)

## いよいよ判決です。

みなさま、あけましておめでとうございます。

ジョナさんの補装具費に関する裁判は、2020年12月25日の期日で結審し、いよいよ判決を迎えることとなりました。

その前の期日でジョナさんの本人尋問も終了し、原告被告ともにすべての証拠とこれまでの主張をふまえた最終の準備書面を提出しました。

原告側の準備書面は、これまでの主張を振り返りつつ、改めてこの訴訟が原告ジョナさんの尊厳と自己決定権を取り戻すためのものであるということを確認する内容となりました。

また、この裁判の過程で明らかとなった補装具の支給決定の閉鎖性や専門性の欠如などを指摘する内容となっています。

また12月14日の期日では、ジョナさんのビデオによる意見陳述が実施されました。意見陳述は、法廷で裁判官の前で実施するのが原則で、その際に使用した原稿を裁判所に提出することが一般的です。

しかし、ジョナさんの場合、前回の尋問において法廷でのやり取りがご本人の体力を奪い、体調不良に陥る危険があることが明らかとなっていたため、事前に自宅で撮影した意見陳述を法廷で再生する方法を裁判所に申し出ました。このようなやり方自体、弁護団においてもこれまで経験がなく、裁判所が許容するか微妙でしたが、裁判所は上映されたビデオは裁判の記録とせず、あくまで法廷で話されたものとして扱うとして受け入れました。

このような運用面で工夫しながら意見陳述の実施を認めたということも以前の裁判所の態度からすると考えられないことですので、裁判所の態度を変えさせたこともジョナさんの功績の一つといえます。

そのビデオにおいてジョナさんが語った内容も素晴らしいものでした。「なぜ我慢するのはいつも障害者のか。」、この素朴な疑問を胸に、これまで車いすユーザーが諦めていた自分に合った車いすを要求し、裁判で争ってきたことをお話しされました。

そして、尋問でリフト機能の必要性を尋ねた裁判官に対し、それがなければあなたの目を見て話をすることさえもできないのですと語り掛けました。

ジョナさんがこの裁判を闘い発言することが、多くの車いすユーザーに勇気を与えることになったと思います。

さて、5年にわたって続いた裁判の判決は、2021年3月14日午後1時15分から京都地方裁判所の101号法廷で言い渡されることとなります。

判決の言い渡し自体は、主文の1～2行を読み上げる程度で終わってしまう味気のないものですが、その意味するところは大きいですし、判決後には報告集会も予定しています。是非とも参加していただければと思います。

弁護士・浅井 亮